

外来種や危険生物と どう向き合うか?

～伊都キャンパスに潜む外来種や危険生物～

とき > 2015年7月20日(月・祝) 10:00～12:30

ところ > 九州大学・伊都キャンパス・ゲストハウス(多目的ホール)

参加
自由

講演

● 日本の外来種問題の実情

荒谷 邦雄(九州大学大学院・地球社会統合科学府・教授)

● 日本固有種ニホンイシガメの危機

—外来生物アライグマやミドリガメによる被害

鈴木 大(九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・助教)

● セアカゴケグモの発見とその対応策

小野 展嗣(国立科学博物館・動物研究部/地球社会統合科学府・客員教授)

● 病気を媒介する吸血鬼—マダニ

山内 健生(兵庫県立大学・准教授/兵庫県立人と自然の博物館・主任研究員)

● 特定外来生物ツマアカスズメバチについて

上野 高敏(九州大学・農学研究院・准教授)



アライグマ

写真提供:元岡「市民の手による生物調査」



セアカゴケグモ



マダニの1種
(タカサゴキララマダニ)

九大・伊都キャンパスにある「生物多様性保全ゾーン」は周辺地域との環境の調和と地域生物の保全を担っている一方で、外来種にとっても格好のすみかを提供しており、在来の生物との間に様々な問題が生じています。このセミナーではキャンパス内で見られる外来種や危険生物の紹介とそれに伴う問題について考えます。本学府に限らず、学部学生や教職員、一般の方も自由にご参加ください。